

NGN構築へ向け最新OSSを投入 通信事業者の情報活用を促す



英クレマー・システムズ
最高技術責任者
Don Gibson

英IPL社やウェスティングハウス・システムズ社にて通信事業者のOSSを専門とし、大規模プロジェクト管理、コンサルティング、事業開発に携わる。96年にクレマー社を共同創立し、製品戦略全般を掌。物理学の最高優等学位および原子物理学博士

クレマー・ジャパン株式会社
TEL : 03-5219-1290
http://www.cramer.jp

OSS(Operation Support Systems)にリソース / インベントリ管理ソリューションを提供する英クレマー社。ネットワークの資源と資産を一元管理し、網の計画・設計から保守に至るフルフィルメントを直接支援する。3月28日に投入されたNGN(次世代網)向け新バージョンの概要と狙いを、創業者の一人、ドン・ギブソンCTOから聞いた。

「Cramer6 OSS Suite」は2年ぶりのメジャーバージョンアップですね。

ギブソン 統合インベントリDB(コアリポジトリ)の配下に3つのアプリケーションモジュールを追加し、既存モジュールに4つの拡張を施しました。最新版は従来のOSSのようにバラバラではなく、高度に統合されたスイート製品の形で提供されます。これにより通信事業者は、大規模なOSSをより簡単に操作できるようになります。

Cramer6での拡張は、NGN構築を意識したものですか。

ギブソン そのとおりですが、さらに重要なのは移行期間中のオペレーションです。NGNへの移行には何年もかかりますし、その間ずっとレガシーを維持運用し続けねばなりません。

移行期にはどんな問題があるとギブソン氏は考えていますか。

ギブソン 新旧の網とシステムはアーキテクチャがまったく違います。特に大手の事業者になるほど、旧システムからのデータ移行が難問になるでしょう。NGNとそのシステムは、何も無い平野に建てられるわけではありません。

ネットワーク設備だけでなく、インベントリの履歴、顧客ごとのSLA、過去のサービスの結果、オペレーションプロセスの管理データ等を、通信事業者の情報資産として保護・移行・有効活用する仕組みが必要になるということですね。

ギブソン 私がNGNで強調したいのはそこです。そうした当社の経験知が、Cramer6には活かされています。

業務基盤から情報活用の基盤へ

データ活用の余談ですが、従来OSSは日々のNOC業務をこなすためにありました。同じく定型業務のインフラだったERPには別途データウェアハウスや経営コックピットが追加され、結果ERP自体の存在感も広がりました。OSSも同様に、情報活用を通じたサービス開発支援や戦略支援へと役割を広げるのでしょうか。特にCramerの場合、統合DBの共有を通じてプロセス間を自動連携する点で、ERPとの共通点も多いように見えますが、

ギブソン そこは余談などではなく、次世代OSSの本質です。ERPがそうであったように、テーマは「データとプロセスの統合」です。そこから新たなビジネス

【プロビジョニング】

provisioning:「供給する」の現在進行形で、時に「必要」などと訳される。通信事業においては、科学的な需要予測に基づいて予め用意されたサービスリソースを、顧客の要求に即応して迅速にセットアップし提供するタイムトゥーマーケットのオペレーションプロセスを指す。オンデマンド型プロセスへの転換を含蓄して使われる語である。

の価値が生まれるのです。

「従来OSSはバラバラだった」というのは、単にネットワークの管理システムが別々という意味ではありません。網ごとにオペレーション、プロセス、サービス、資源管理等が築かれてきたのです。

インベントリの統合は、まずこの非効率を廃してオペレーションコストを劇的に削減します。その次の最適化と自動化をCramer5では追求してきましたが、Cramer6はさらに次を目指します。Cramerがセントライズ(中央化)される情報の範囲を拡大し続けているのはこのためです。したがってデータウェアハウスも、われわれにとっては重要な取り組み課題です。

OSSがバリューアップや収益向上の基盤になるということですか。

ギブソン 方向はそうですが、OSS自体のチェンジバリューはもう少し先でしょう。NGNのオペレーターは新しいサービスを「月々」ではなく「日々」創出せねばなりません。それには効率的かつ迅速なプロビジョニング(注)とデータマネジメントが不可欠です。ネットワークインベントリの集中管理は、事業者にとって最も緊急度の高い効率化とコスト削減を通じ、間接的に新たなサービスの創出に寄与していくことになります。

ディスカバリとアクティベーション

3つの新規アプリケーションとは、

ギブソン 「ディスカバリエンジン」「アクティベーションエンジン」「サービスカタログ」です。

ネットワーク情報の維持プロセスは2つの部分から成ります。1つは実際の網

から構成情報などを吸い上げる働きです。Cramer6ではディスカバリエンジンが直接ネットワークを自動探査して、必要な情報を取得します。

もう1つはリコンシエーション(調整・同期化)です。ディスカバーされた現実の網の姿とコアリポジトリを比較・整合し、ビューを同期化します。これは従来どおりシンクエンジンが担当します。

これまで、網の現状を把握するための視点と、リソース / インベントリを見る視点が同期していなかったことが、オペレーションを著しく煩雑にしていたのです。Cramer6のアクティベーションエンジンでは、2つのビューが整合され一貫化されます。さらに新旧のシステム間、異なるOSSやDB間の情報も整合され、その上で統合型のアクティベーションが実行されます。これによりネットワークのデプロイメント(配布・起動)を一気に効率化し、迅速化するのです。

簡素で強力なAPIを提供

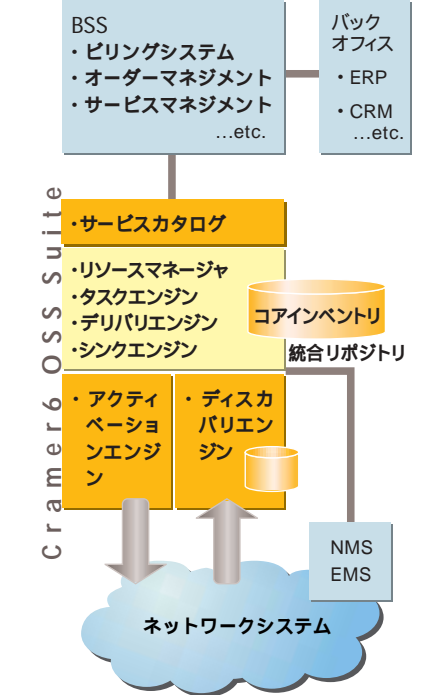
3番目のサービスカタログはどういうアプリケーションですか。

ギブソン BSSと連携して、SAPやOracleのERPが持つ機能を簡単に利用可能とします。サービスカタログを使えば、すべての通信サービスを簡潔に説明できます。PSTNとSONETとVoIP網が地域ごとに複雑に混在していても、簡素で抽象的な形で表現できます。

その外部APIの用途は、データ交換ですが、それとも外部の処理をCramerの中から呼び出すためか、逆に外部から呼び出されるためですか。

ギブソン そこは重要です。そのすべ

図 「Cramer6 OSS Suite」に追加された新しいアプリケーションモジュールの位置付け



てをカバーします。しかもBSSとのAPIを5つのハンドル(操作)に集約し、効率的で安価な連携を可能にしました。OSSの情報を、より高次のBSSやビジネスレイヤのサービスメニューにハイレベルAPIでつなぐのです。

しかし実際の事業者組織が「NGNではデータマネジメントがビジネスを生む」と価値観を変えるのは大変です。

ギブソン その点は世界中同じですが、確実に変わります。そのときCramerはOSSを次世代のものに変えていくでしょう。

次のCramer7は過渡期の製品ではなく、NGN本番時代のOSSになると。

ギブソン いえ、それはCramer8以降でしょう。NGNへの移行のピークは5年先、早くても1~2年先ですが、Cramerはその間も進化し続けるからです。

本インタビューの詳細版は [http://www.ngns.info] でご覧になれます。